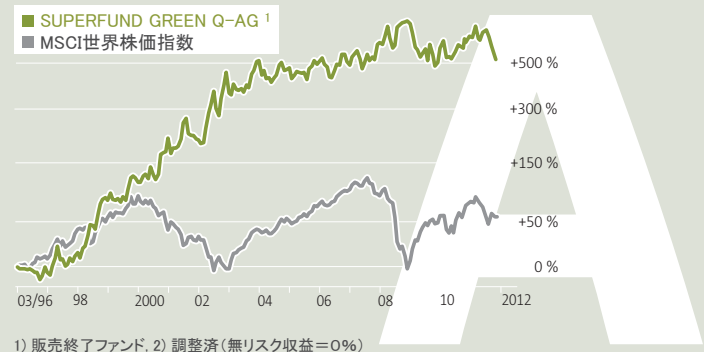


戦略

■ SUPERFUND GREEN A – The Traditional – 伝統的

SUPERFUND GREEN Q-AG ¹		2011		年間リターン	
設定日	1996/03/08	1月	-3.78%	1996	-10.30%
設定時INDEX	1,000.00	2月	4.90%	1997	20.70%
設定来	510.33%	3月	-0.55%	1998	62.55%
年率複利リターン	12.11%	4月	8.99%	1999	25.39%
収益プラスとなった月の割合	55.79%	5月	-8.97%	2000	23.19%
最大下落率	32.83%	6月	-2.14%	2001	18.82%
証拠金比率 ³	14.39	7月	6.16%	2002	38.42%
		8月	0.64%	2003	24.33%
シャープレシオ ²	0.51	9月	-3.31%	2004	10.98%
マーレシオ	0.37	10月	-11.17%	2005	-3.30%
S&P500との相関性	-0.09	11月	-3.79%	2006	10.47%
		12月	-5.13%	2007	-1.81%
MSCI世界株価指数	58.11%		-18.37%	合計:	510.33%



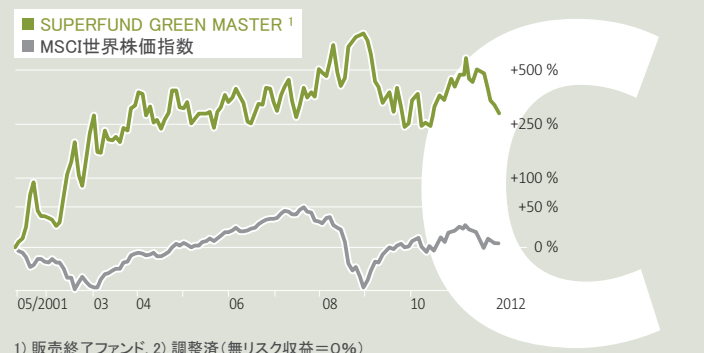
■ SUPERFUND GREEN B – The Dynamic – ダイナミック

SUPERFUND GREEN GCT USD ¹		2011		年間リターン	
設定日	2000/01/04	1月	-5.28%	2000	40.16%
設定時INDEX	551.16	2月	7.64%	2001	42.56%
設定来	236.51%	3月	-0.59%	2002	69.23%
年率複利リターン	10.64%	4月	14.27%	2003	26.35%
収益プラスとなった月の割合	57.64%	5月	-12.54%	2004	11.20%
最大下落率	50.22%	6月	-3.27%	2005	-9.12%
		7月	8.95%	2006	13.18%
シャープレシオ ²	0.29	8月	0.83%	2007	-9.91%
マーレシオ	0.21	9月	-4.25%	2008	50.51%
S&P500との相関性	-0.15	10月	-10.70%	2009	-39.90%
		11月	-15.34%	2010	17.20%
MSCI世界株価指数	-16.56%	12月	-7.45%	2011	-27.89%
			-27.89%	合計:	236.51%



■ SUPERFUND GREEN C – The Aggressive – 積極的

SUPERFUND GREEN MASTER ¹		2011		年間リターン	
設定日	2001/05/03	1月	-6.49%	2001	37.30%
設定時INDEX	10.00	2月	10.57%	2002	79.84%
設定来	283.87%	3月	-0.42%	2003	63.50%
年率複利リターン	13.44%	4月	19.19%	2004	19.91%
収益プラスとなった月の割合	53.13%	5月	-17.72%	2005	-15.24%
最大下落率	60.95%	6月	-3.75%	2006	21.40%
		7月	12.46%	2007	-4.02%
シャープレシオ ²	0.27	8月	1.57%	2008	74.18%
マーレシオ	0.22	9月	-5.34%	2009	-51.03%
S&P500との相関性	-0.17	10月	-21.46%	2010	34.07%
		11月	-6.16%	2011	-29.79%
MSCI世界株価指数	4.17%	12月	-9.35%		
			-29.79%	合計:	283.87%

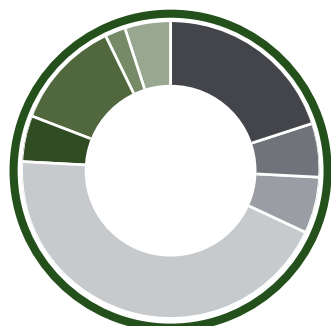


米証券大手MFグローバル(先物取引ブローカー)の経営破綻により、純資産価額の算出において、MFグローバルに保管されている資産は一時的に分離され、その資産価額は現在のところゼロと評価されています。これにより、Cayman SPCファンド(Superfund Q-AG, Superfund Cayman)の2011年10月31日付以降、及びSuperfund SICAVファンド(Superfund GCT USD/EUR)の2011年11月30日付以降の純資産価額は、-4.3%から-10.7%の影響を受けています。MFグローバルから資産が返還され(*1)、ファンドの純資産価額が再評価により増額した時点で、2011年10月31日現在の受益者には増額相当分が返還されます。(*1:MFグローバルから返還された資産価額が当初減額価額を下回った場合には、当該価額相当の純資産価額が毀損されます。)

本資料に記載した運用実績は、すべての間接費用(申込手数料及び税金は除く)差し引き後の純収益で表しています。これらの過去の運用実績は将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。最終頁の「免責事項」もお読みください。

3) 本資料に記載したSuperfund Q-AGの証拠金比率(MER: Margin-to-Equity Ratio)は、レポート対象期間(1ヶ月間)のMERの平均値です。MERの要件は取引所と決済機関に応じて異なります。通常、決済機関の要件は取引所の要件よりも厳しく、これらの各要件は変動する場合があります。また、MERは市場の状況に応じて急激に変化する可能性があるため、本資料に記載されているMERは一般的な平均値または目標値と捉えるべきではありません。

セクター別の寄与率



セクター	配分比率	寄与率	パフォーマンスへの寄与率
株値指数	20 %	-0.06 %	
債券	6 %	-0.46 %	
金利	6 %	-0.53 %	
通貨	44 %	0.41 %	
穀物	5 %	-0.49 %	
エネルギー	12 %	-2.43 %	
金属	2 %	-1.23 %	
農産物	5 %	-0.33 %	
合計	100 %	-5.13 %	

セクター配分比率のチャートは、該当報告期間において、Superfund Q-AG(販売終了ファンド)の先物契約・先渡契約の未決済ポジションを維持するのに必要とされる予想証拠金の比率を表しています。必要な証拠金は市場の状況に応じて急激に変化するため、この配分比率は単なる参考値として捉えてください。なお、スーパーファンドの他のファンドは、Superfund Q-AGと同じ投資戦略を採用していますが、それらのファンドの証拠金配分比率は、取引対象の市場に固有の規制や制限、運用資産額、売買のタイミング等、複数の要因(これらに限定されません)に応じて異なります。

商品市場

■ エネルギー

寄与率: -2.43 %

12月、様々なマクロ経済要因で市場の変動性が高まり、エネルギー市場のポジションから比較的大きな損失が生じた。失業率の低下をはじめとする米国の景気指標の着実な改善によってエネルギー価格は支えられ、NYMEX原油先物は1バレルあたり100米ドル超の水準を維持した。しかしながら、EUサミットで提案された財政支援策が欧州の経済成長にとって不十分であるとの評価からネガティブな市場心理が生じ、原油先物は下落した。その後、イランに対する制裁要求や中東地域からの供給遮断予想を背景に、原油先物は数週来の安値から反発した。天然ガス先物は、米国中西部と東海岸の平年より高い気温と在庫の増加(5年間の平均を8.7%上回る水準)を背景に、前月比 -16.5%と大きく下落した。期近物天然ガス先物は心理的な下値抵抗線(\$3.00)を守れず、27ヶ月振りの安値(\$2.989)に下落した。

■ 金属

寄与率: -1.23 %

12月、単金属先物による利益が金先物からの損失で帳消しにされ、金属市場におけるポジションは損失となった。2011年の後半、欧州の財政危機と、それに伴う需要減少懸念は単金属の価格に大きな影響を与えた。ロンドンのアルミニウム先物(-4.27%)は欧州の景気低迷による需要減少懸念と在庫の大幅な増加を背景に下落し、売りポジションから利益が生じた。銅先物も同様に需要減少懸念から下落した。銅の最大の消費国である中国で在庫が増加する一方で、工業生産は鈍化した。欧州の財政危機懸念を契機に売られ始めたCOMEX銀先物(-14.9%)は4ヶ月振りの安値に達した。COMEX金先物(-10.5%)は月中頃に過去2年間で初めて200日移動平均を下回った。また、金先物は2009年10月以来初めて5日間連続で下落し、6月来の最安値水準に達した。

■ 穀物

寄与率: -0.49 %

12月、南米の天候不順による生産減少予想、売り方の買戻し、テクニカル的なモーメンタム等の要因で穀物価格が全般的に上昇し、穀物市場のポジションが若干の損失となった。大豆先物は輸出需要の減少で14ヶ月来の安値(\$11.04 1/2)まで売られたが、ブラジルとアルゼンチンで高温乾燥気候が続いたため、生産量の減少が懸念された。大豆先物は\$11のレベルで安値拾いの買いによって支えられたほか、売り方の買戻しも入って反発した。3月限トウモロコシ先物も同様のパターンで、9ヶ月来の安値(\$5.76 1/2)まで売られたが、その後、年末まで着実に上昇した。南米の大豆とトウモロコシの生産量が減少することで、米国産の穀物に対する需要増加が予想された。小麦先物はファンダメンタル自身には変化がないものの、トウモロコシ先物の上昇に支えられ、売り方の買戻しも多く入って上昇した。CBOTのトウモロコシ先物、大豆先物、小麦先物は揃って6週来の高値まで買われ、50日移動平均を突き破った。

■ 農産物

寄与率: -0.33 %

12月、ココアや砂糖の売りポジションからの利益が牛肉先物の損失で帳消しにされ、農作物市場でのポジションは若干の損失となった。2月限牛肉先物は、小売業者が休暇用の在庫を確保した後に小売需要が減少し、12月前半に約5.5%下落した。しかしながら、吹雪の影響で食用牛の供給が減少するとニュースを受けて、牛肉先物は反発し、前月比ほぼ変わらない水準まで値を戻した。2月限豚肉先物は、休暇用の需要が途切れた後で卸売価格が急落したことを受けて、前月比7.9%下落し、11ヶ月振りの安値に達した。ココア先物は世界最大の産出国(アイボリーコーストとガーナ)からの順調な供給を背景に下降トレンドを続け、売りポジションが利益となった。ココア先物は、ロンドンで -8.5%、ニューヨークで -5.8%の前月比下落率となった。また、ロンドンとニューヨークの3月限砂糖先物は約2%下落し、売りポジションから若干の利益が得られた。

ポジション分析 (月次パフォーマンスへの寄与率)

プラス寄与 上位3位	ポジション	寄与率
LMEアルミニウム3ヶ月先物	ショート(売り)	0.35 %
CMEユーロ通貨先物	ロング(買い)/ショート(売り)	0.33 %
EUR/JPY外国為替先物	ショート(売り)	0.17 %

マイナス寄与 下位3位	ポジション	寄与率
COMEX金先物	ロング(買い)	-1.30 %
NYMEX原油先物	ロング(買い)/ショート(売り)	-0.87 %
IPE軽油先物	ロング(買い)	-0.48 %

金融市場

■ 株価指数

寄与率: -0.06 %

12月、世界の株式市場は引き続き高い変動性を示し、株価指数のポジションは若干の損失となった。欧州では国債の入札が不調で今後妥当な金利で資金調達が可能かどうか分からないことや、欧州の政策当局が財政危機問題の根本的な解決に苦慮していること等を背景に、株価指数は12月初めに下落した。DAX指数(-3.1%)、EuroStoxx指数(-0.4%)、MIB40指数(-2.2%)は前月比下落したものの、財政問題解決策に若干の進展が見られたため、月中安値からは反発した。米国では、失業率の低下や消費者信頼感指数の向上など、米国経済の着実な回復を示唆するポジティブな景気指標が順次公表される中、ダウ指数(前月比+1.6%)をはじめとする株価指数が上昇した。アジア市場では、ハンセン指数(+2.1%)が上昇した。KOSPI指数(-0.5%)と日経平均(-0.1%)は月初めに上昇したが、世界的な景気低迷懸念から前月比ほぼ変わらない水準で月末を迎えた。

■ 通貨

寄与率: 0.41 %

12月中、通貨市場では常時高い変動が見られたが、通貨市場のポジションは若干の利益となった。12月の特徴的な動きとして、欧州の財政危機問題がニュースで大きく取り上げられ、投資家が比較的安全な通貨として米ドルを嗜好したため、他の多くの通貨に対して米ドルが上昇した。ユーロ(-3.6%)、スイス・フラン(-2.8%)、英ポンド(-1.2%)は、すべて米ドルに対して下落した。ユーロは12月初めにEUの崩壊懸念で大きく売られたが、その懸念は薄れ、月末にかけて少し値を戻した。欧州の景気低迷懸念が強まる一方、米国の景気指標が比較的好調であることも、米ドル高の支援材料となった。しかしながら、中国の製造業指数が2ヶ月連続で下落したというニュースを受けて、月末取引日に米ドルが下落し、日本円(+1.7%)と豪ドル(+0.3%)は上昇した。

■ 債券

寄与率: -0.46 %

12月、世界の債券市場は様々な外的要因を背景に高い変動性を示し、同市場におけるポジションは若干の損失となった。12月中旬の米国短期債の入札では1993年以降で最高水準の需要がみられたが、欧州の政策当局と中央銀行の意思決定を受けて債券価格は変動した。米国の財務省債券先物のうち、10年物(+1.4%)は上昇したが、2年物は前月比変わらない水準で引けた。欧州では、EU財政救済策にあたり英国政府が欧州中央銀行(ECB)を支援しない意思決定を行ったことを受けて、英国長期ギルト債先物(+3.0%)が史上最高値に上昇した。一方、欧州圏内の資金難の銀行に対してECBが4,890億ユーロの支援融資を行うと決定した後、ドイツ国債先物は下落した。ECBのこの意思決定の影響は、銀行が短期融資用に十分な資金を確保できたイタリアでより強く表れた。イタリアでは、2013年満期の短期債利回りが前回入札時の7.814%から4.853%に低下した。また、イタリアの6ヶ月金利は6.504%から3.251%に約半分となった。アジアでは、韓国の短期債先物が上昇基調にあったが、金正日の死後に急落し、前月比ほぼ変わらない水準で月末を迎えた。

■ 金利

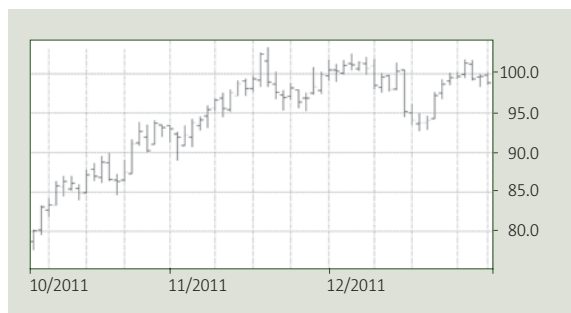
寄与率: -0.53 %

12月、投資家が比較的安全な金利市場を引き続き選好し、短期金利は下降基調を続けた。欧州中央銀行(ECB)が融資条件を緩和して市場に流動性を供給する試みを続けたため、短期金利は月中の低水準から若干上昇した。ECBのこのような尽力にもかかわらず、欧州の銀行間では不信感が拭い切れず、各銀行は相互に資金を融通するよりも、ECBに資金を預託するほうを好んだ。米国FRBは既に上向き始めた景気の刺激と流動性の供給のために、独自の量的緩和(QE)姿勢を維持した。米国FRBは少なくとも2013年まではベンチマーク金利をゼロ付近に据え置くことを宣言して、これまでの金融緩和姿勢の維持を再確認した。アジアでは、成長鈍化懸念や欧州財政危機を背景に、短期金利は前月比ほぼ変わらない水準にとどまった。月末にかけて短期金利が再び下落したため、金利市場におけるポジションは若干の損失となった。

マーケット分析 (月次パフォーマンスへの寄与率)

■ NYMEX 原油先物 ロング(買い)/ショート(売り) | -0.87 %

2月限原油先物は月初めに1バレルあたり102.56米ドルまで上昇したが、直近高値は抜けず、欧州の財政危機問題やフランス国債の格下げ懸念で、月中旬に92.70米ドルまで売られた。燃料用需要は減少の兆候を示し、米国の12月の原油在庫は957万バレル増加して3億3,960万バレルとなった。しかしながら、その後、イランの核兵器開発に対する制裁要求、中東のホルムズ海峡を封鎖するというイランの威嚇で政治的緊張が高まったことで、原油先物は安値から重要な抵抗線である100米ドルまで反発した。原油先物は1バレルあたり99.65米ドルで年末を迎えた。



■ ロンドンFTSE 100株価指数先物 ロング(買い)/ショート(売り) | -0.06 %

12月中、FTSE 100株価指数先物は、欧州の景気低迷懸念や銀行の支払い能力問題等の不透明な要因で市場が動揺し、変動性の高い動きを示した。月中旬までは少ない出来高で徐々に下落していたが、米国の順調な住宅統計やドイツの予想外の企業景況感指数に支えられ、月末にかけて上昇に転じた。欧州圏内の銀行に対して流動性供給のためにECBが4,890億ユーロの融資を行うと決定したことも支援材料となり、FTSE指数は前月比若干上昇した(+0.8%)。



■ CMEユーロ通貨先物 ロング(買い)/ショート(売り) | 0.33 %

12月中、予想外に不調な入札後にイタリア国債の利回りが上昇したことなどで、ユーロは15ヶ月振りの安値に下落した。欧州中央銀行(ECB)はベンチマーク金利を0.25%引き下げ、1.0%という記録的な低水準に設定した。ECBが金融市場に流動性を注ぎ続けるという懸念を背景に、ユーロは継続的な売り圧力を受けた。実際、ECBは融資条件を緩和して銀行に流動性を供給する試みを続けた結果、ECBのバランスシートは2兆7,300億ユーロという史上最高値に膨らんだ。ユーロは年末にかけて下がり続け、結局、米ドルに対して3.6%下落した。



重要事項: 本資料に記載した運用実績は、すべての間接費用(申込手数料及び税金は除く)差し引き後の純収益で表しています。これらの過去の運用実績は将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。最終頁の「免責事項」もお読みください。スーパーファンドの各ファンドへの投資を検討する際には、該当の国や地域の法制、税制、証券取引規制について十分な情報を収集し、適正な助言を受けることをお勧めします。また、スーパーファンドのファンドは利益相反による特定の不利を被る可能性があります。

出典: Superfund, TeleTrader

免責事項

－必ずお読みください－

本資料は、スーパーファンド証券株式会社が作成したものであり、金融商品取引法に基づく法定の開示資料ではありません。また、本資料は投資に係る参考情報を提供することを目的とし、特定の有価証券の勧誘を目的として作成したものではありません。

本資料に記載されている Superfund Q-AG(販売終了)、Superfund GCT USD/EUR(販売終了)、Superfund Cayman Master Class A【旧 Superfund Cayman】(販売終了)の運用実績は、各スーパーファンド・グリーン戦略(A、B、C)のうち、最も長い実績を持つファンドの過去の運用実績等を示したものです。これらは閲覧・参照用データとしてのみ記載しており、日本において募集されているファンド若しくはそのマスターファンドとは異なる商品であることをご理解ください。また、同じ投資戦略を採用するスーパーファンドのファンドの運用実績は、手数料・報酬体系の違い、運用資産額の規模、レバレッジの違い、売買のタイミング等、複数の要因(これらに限定されません)に応じて異なります。スーパーファンドの特定のファンドに対する投資に伴うリスク、手数料、報酬、費用等の詳細については、該当の目論見書を必ずお読みください。

スーパーファンドが取扱うファンドは投機性の高い金融商品です。主なリスクには、市場リスク、金利リスク、信用リスク、為替リスク、デリバティブ取引リスクがあります。ファンドの純資産価額は各市場などの価格変動によって大きな影響を受けるほか、レバレッジを伴う先物やオプション取引は、急激な損失を被る恐れがあるため、投資元本を大きく割り込む可能性があり、場合によっては投資金額全額を失う可能性があります。ファンドは、その投資元本が保証されたものではなく、預金保険機構の保護対象ではありません。

本資料に記載されている情報は、信頼性が高い情報源よりまとめられたものですが、情報に関する正確性、完全性、信頼性を保証するものではなく、将来の運用成果、市場環境の変動等を保証するものでもありません。また予想指数は、分析時の見解に基づいたものであり、これらの予想指数が変更されても本資料を再発行する義務はありません。本資料に記載されている情報等の利用により生じた損害等に対し、当社は一切責任を負いません。

■会社概要■

商号等：	スーパーファンド証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第98号
本店所在地：	東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルタワー10階
加入協会等：	日本証券業協会、日本投資者保護基金
指定紛争解決機関：	特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター
資本金：	275百万円(2011年3月末現在)
主な事業：	金融商品取引業
設立：	2005年11月1日
連絡先：	TEL 03 3508 6700 FAX 03 3508 6730
ホームページ：	http://www.superfund.co.jp